富山医薬大医誌13巻１号　2000年

最終講義

血栓止血学と私

櫻　川　信　男
富山医科薬科大学医学部　臨床検査医学講座教授　附属病院検査部長

この度，３月31日付で約21ヶ月間奉職した富山医科薬科大学を停年退官しました。

私は昭和36年（1961年）新潟大学医学部を卒業しました。その一年前に父を脳内出血で失い，私の専門を脳卒中と決めました。以来，新潟大学第一内科，東京大学第一内科（国内留学），米国ウェーン・ステート大学生理学教室（シーガース教授），富山医科薬科大学臨床検査医学講座において血栓止血学研究に38年間没頭しました。顧みますと多くの先輩，友人に支えられて今日まで恵まれた健康と共に一生懸命努力出来ました。ここに感謝の念を込めてこれまでの軌跡を辿ってみます。

（A）新潟大学第一内科血液研究班（1962.4～1969.12）：３名の先輩の研究班へ一人飛び込み，形態学を標榜するグループの中で血栓止血学を研究し始めました。形態学は多くの経験が物を言う「場」でありますが，血栓止血学は自分で行った「マニュアル」によるデータを持って勝負する気概のこもった分野であります。東京大学第一内科で血栓止血学の“how to”を教示して頂き，その後，家兎の脳より組織トロンボプラスチンを作成してプロトロンビン時間測定を行ったり，屠殺場より牛血を頂いてフィブリノーゲンを作製した日々を懐かしく想起します。

（B）米国留学（1969.12～1971.12）：当時世界をリードして生化学・分子生物学的手法による血栓止血学を研究しておられたウェーン・ステート大学生理学教室のシーガース教授のもとへ勇躍飛び込んで研究に没頭しました。今日の名称でのProtein CやAntithrombin及びProthtrombinについて自分の手で楽しく，生き生きと米国での研究生活を送れたことは幸福でした。

帰国時，シーガース教授から米国での長期滞在研究を熱心に薦められたことを有り難く想起します。留学時に培った友情はその後，世界各地での友人として今日も続いております。

（C）再び新潟大学第一内科血液研究班（1972.1～1979.8）：帰国後，血栓止血学の分子生物学・遺伝子学的研究に入り，血管内凝固症候群をはじめとする各種血栓症での病態生理学的研究を続けました。

（D）富山医科薬科大学検査部・臨床検査医学講座（1979.8～2000.3）：「富山の地」は，私の人生に最大の幸福をもたらしました。世界で最初にその病態を解明した「アンチトロンビンⅢ異常症－富山」症例（タイプⅡb）との遭遇から始まり，「アンチトロンビンⅢ異常症－青森」症例（タイプⅡa. 本邦第１症例. 世界第８症例）及び「アンチトロンビンⅢ産生肝細胞癌」症例（世界第１症例）も経験しました。そして，本格的分子生物学・遺伝学的研究を血栓止血学の本邦における「メッカ」として業績を重ね，本邦最初の「高度先進医療」“先天性血液凝固異常症の遺伝的診断”を実施するに到りました。更に血友病治療につき，世界に先駆けて「経口治療法」を研究しました。しかし，悲しい薬害によるHIV感染症が悪魔の如く現れ，その後は全力投球でこれに対応し，本症治療「拠点病院」として患者さんの「ケアとキュア」に努力しました。

38年間にわたる血栓止血学研究「この道一筋に一生懸命」に人生を歩んで参りましたが，多くの先輩・友人のご協力の賜物と存じ深甚なる感謝の念を表します。同時に富山医科薬科大学のますますのご発展を祈念してご挨拶と致します。